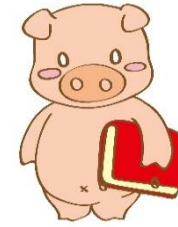




らいぶらりい



倉吉北高図書館
2018.5.16

さつき さなえつき あやめつき
皐月・早苗月・菖蒲月

皐月の由来

「皐」は田を表す言葉であり、田植えをする月という意味。

二十四節気

小満 21日ごろ
草木の緑がより濃くなって、いろいろな生物が満ち始める。

ゴールデンウィークも終わり、木々の新芽が生え、若々しい緑が美しい季節ですね。これから初夏へと季節が移っていきます。季節の移り変わりを楽しんで見てください。

～短歌の世界～業平忌 (5/28)

ちはやぶる神代も聞かず龍田川
からくれなるに水くくるとは

神代にも聞いたことがない。龍田川にもみじが散って、流れる水を鮮やかな紅色にくくり染にするなどという事は。

百人一首と聞けば、かるたを思い浮かぶと思いますが、本来は「百人の歌人から一首ずつ集めた」いわゆる詩集です。百人一首は「小倉百人一首」が一番古く、その後さまざまに百人一首が作られました。

5月28日は、業平忌といわれ、在原業平が亡くなった日です。在原業平は冒頭の「ちはやぶる」の句を詠んだ人です。業平は大変な美男子、自由奔放な性格で恋多き男でした。彼をモデルにしたといわれるのが「伊勢物語」で、悲しい恋物語です。

短歌といえば、「五七五七七」の三十一文字という限られた字数の中で情景を表現したり、感情を込めたりした歌です。最も古い歌集は「万葉集」です。短歌そのものは古事記にも見られ、須佐之男命が詠んだとされる

「八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を」
が短歌の起源といわれています。

また、俵万智氏のような、字数にとらわれず自由韻律で詠んだ短歌集も数多く出ています。

短歌や俳句、川柳など日本特有の文化です。ぜひ一度短歌を味わってみてください。

短歌の本

「よくわかる百人一首」

中村菊一郎監修

「ちはやと覚える百人一首」

あんの秀子著

「万葉のうた」大原富枝文

「うた恋い。」杉田圭作

「サラダ記念日」俵万智

「麒麟の子」鳥居

「てのりくじら」柘野浩一

総体目前！これを読んで熱くなろう！

「武士道シックスティーン」 誉田哲也著

宮本武蔵を師と仰ぐ剣道ひとすじの香織は中学最後の大会で、無名の早苗に負けてしまった。その2人が同じ高校に入学し剣道部に入部するが、方や熱血剣道少女、方や勝敗に固執しないお気楽少女。2人の剣道にかける青春は・・・？

「タスキメシ」 額賀澤著

陸上名門高校で期待されている早馬はけがをしてリハビリ中に料理と出合う。弟の春馬も長距離走者として期待されている、なのに、春馬の食生活がひどい。好き嫌いも多くこれではランナーとしての体が作れない。改善すべく早馬は弟春馬の好き嫌いを直すことにした。

「ぼくたちのアリウープ」 五十嵐貴久著

高校で大好きなバスケットをするために、入部したジュンペー。ところが3年生が犯した不祥事で1年間の大会出場禁止に。2年生には入部しても練習も何もするなと言われ…納得いかないジュンペー達は勝負を挑む。果たして、ジュンペーの願いは叶うのか。青春スポーツ小説。

「敗者たちの季節」 あさのあつこ著

夏の地方大会、決勝で負けた海藤高校は甲子園を逃した。ところが優勝した東祥高校が出場を辞退した！事の急展開に戸惑う海藤高校の部員たち、出場を辞退した東祥高校の部員の想い、高校野球を取材する記者、先輩の想いをつなぐ監督、様々な人たちの想いが交差する。

校歌から地域を探る

真理究めん 奥深く

遠き文化の源は 波波伎の学園に 集ひきて

太古の森の静けさを 小鳥は歌ふ 天地の

北高近くにある波波伎神社には、木ノ宮ミコの子であるトヨシノが祭られている。鎮座の由来は神が天皇に国譲りをすることを承知し、トヨシノは出雲を去った。その後たどり着いたのが福庭で、この地に身をお隠しになった。福庭の地は古くから朝廷をはじめ多くの人々に尊崇された地である。

福庭は大平山の麓^{ふもと}にひろがる集落。江戸時代から福庭村と呼ばれていた。大平山には210基以上の古墳が発見されていて、古代よりこの地が栄えていたことがわかる。

福庭古墳が波波伎神社境内にある。7世紀中ごろの作りと考えられていて、石室があることで有名。また神社周辺の森は原始林^{しやせう}社叢として史蹟名勝天然記念物に指定されている。

社叢・・・神社の森

参考資料：「上井ふるさと誌」上井地区振興対策協議会